



## 千葉県立千葉盲学校と拡大写本

千葉県立千葉盲学校長 大野 一美

千葉盲学校は、千葉県四街道市に所在し、今年6月に創立106周年を迎えました。四街道市には、千葉点字図書館、(社)千葉県視覚障害者福祉協会、視覚障害者総合支援センターちばがあり、他市から四街道市に引っ越して来る視覚障害者の方もいらっしゃいます。また、他の特別支援学校もあって、市は「福祉のまち」を掲げています。

本校の設置学部は、幼稚部、小学部、中学部、高等部(普通科、総合生活科、保健医療科)、専攻科(保健医療科、理療科)です。今年度は、3歳のお子さんから50代後半の生徒まで80人が一つの校舎で学んでいます。また、県下一つの盲学校のため、通学区域は全県となり、遠距離通学者の負担軽減のため寄宿舎を設置しており、小学部児童から専攻科生徒まで34人が生活を共にしながら学校に通い学習に励んでいます。

さて、本校では40の団体(個人を含む)に所属する約600人の図書ボランティアの方々の協力を得て、読書環境の充実を図っています。その中で、拡大写本でお世話になっている団体は、5団体あります。(四街道拡大写本の会、柏市拡大写本サークル、手作り拡大写本かたつむりの会、拡大写本「るーぺ」、拡大写本こくぶんじ)いずれも、拡大教科書や拡大本の製作を行っています。平成28年度の学校図書の貸し出し状況において、拡大本は幼稚部で39冊、中学部36冊、高等部17冊、通級による指導を受けている児童5冊でした。特に幼稚部では、下校前の「帰りの会」の中で、拡大絵本を使用した読み聞かせの時間を設けています。子どもたちは、大きな絵とお話に引き付けられてじっと耳を傾けています。そうした子どもたちが保護者と図書室を訪れ、絵本を借りるのです。絵本をとおしてたくさんのお話を聞き、言葉のイメージが育まれています。



幼稚部6月帰りの会

小学部や中学部、高等部では、ドリルや資料、参考書、教科書(附則9条本)の拡大をお願いしています。全て一人一人の見え方に応じたポイントで製作していただけるので、大変見やすく使いやすいので学習に集中できるという感想があります。手作りで美しく丈夫な点もありがたいことです。

今後とも、弱視の子どもたち一人一人の合理的配慮の点からも御協力をお願いいたします。

現在のグループ数 53グループ(2017年6月末現在)

## 第 20 回全国拡大教材製作協議会代表者会議 議案承認報告

2017 年度第 20 回代表者会議 議案は文書による承認申請で、下記の回答状況の結果、会則 12 条、13 条、14 条の定めるところに基づき、第 1 号、第 2 号、の全てが承認されました。

回答状況 会員数 53 グループ 6 月 29 日現在 回答 46 グループ 未回答 7 グループ

意見等

1. 全国の会が一同に集まる集会の開催は？

——隔年の代表者会議と拡大のつどいは全国のグループに呼びかけていますが地方の会員の出席は難しいところがあります。今後関東以外でも開催の可能性を探って行きたいと思います。

2. 他グループの製作費を知りたいが、匿名のアンケートをとって欲しい。

——各グループの製作費算出方法が違うので、調べてもあまり参考にならないかもしれません。文科省に問い合わせた結果ボランティア作製の拡大教科書分冊あたりの単価の平均は 3,500 円程度ということです。

3. 今年度製作予定はない。

4. 高校拡大教科書が十分に作られていない。しかし、ボランティアにも依頼がなく、現状がわからない。

——高校教科書は義務教育でないこと、種類が多いこと、費用負担が大きいことなど、ハードルはたくさんありますが、何とかしたいと関係機関に働きかけ、これからも継続していきます。

5. 製本勉強会が役に立った。2 件

6. ホームページが読みやすくなった。写真も多くなり、活動の様子がわかりやすくなった。ブログも読んでいます。

## 製作実績調査中間報告

世話人実績調査担当 山本 裕美子

会員の皆様には、2017 年 5 月 24 日付で『2017 年度製作実績調査ご協力のおかげ』として郵送配布させていただきました。現在、製作状況を集計作業中です。

拡大教科書製作における年度表記が紛らわしいため、改めて明記いたします。

①2017 年度に使用する教科書（前期・通年用）は 2016 年 10 月 20 日以降製作したもの。

②2017 年度に使用する教科書（後期用）を 2017 年 4 月 16 日以降製作予定のもの。

■2017 年度拡大教科書製作実績調査表（小学校・中学校・高校）はホームページからもダウンロード可

■調査表は、郵送またはメールにて世話人会担当にお送り下さい。

送り先住所：〒171-0031 東京都豊島区目白 2-21-21 山本裕美子 宛て

e-mail : yamamoto-y@pop21.odn.ne.jp

お手数ですが、未提出の団体は早急にお知らせください。8 月末には HP に掲載する予定であります。

また、今年度は拡大教科書以外の副教材や絵本などの製作実績も HP 掲載予定です。

## ホームページについて

2017 年 6 月リニューアルページを立ち上げました。「最新の会報」「アルバム」「ブログ」などがすぐに見られます。ブログは前代表佐藤邦隆さんがいろいろな記事を紹介されています。是非ご一読を！

一般社団法人 東京女子大学同窓会 拡大写本あじさい 代表 秋元暁美

あじさいのメンバー4人で参加してきました。小学部の国語・算数・音楽・図工などの授業を中心に、幼稚園、中学部なども見学しました。小学部のお子さんは1クラス1～4人。元気の良い子もおとなしい子もいますが子供たちが生き生きしていること、先生方も時には辛抱強く黙って見守り、時には一人一人的確な声掛けをし、その個性に合わせて授業を進めている様子が心に残り、きめの細かい授業という印象でした。答えを書くための点字器パーキンスが一人一台あり、また音楽室にはグランドピアノ、ドラムセットまであって皆自由に使えて恵まれているなど思いました。

その後図書館説明会があり司書の先生からご説明を受けた後、小学部・中高・専攻科と3つの図書室を見学しました。点字・録音・データ図書・拡大写本・触る絵本などこれらの図書室の蔵書の多くはボランティアの力によるものが多く、現在約30団体が登録しているとのこと。

小学部の図書室には種類別に本棚が出来ていて、私達あじさいがずっと送り続けてきた拡大写本も分かりやすくきちんと整理されていました。因みにあじさいが筑波に寄贈した拡大写本は計860冊余りとなっています。担当の先生ともお話ししましたが、皆がとても楽しみにして下さっているとのこと、あの元気な1年生の男の子も読んでくれるかなと又拡大写本作りが楽しみになりました。

## グループ紹介

全国の会員グループの皆様はどのように活動されているのでしょうか。3つのグループから近況報告が来ています。

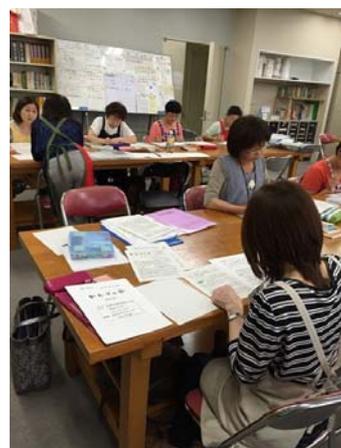


### 「拡大写本グループ」かわずの会（北海道） 代表 黒川 郷子

4月に代表になり初めて会報とホームページを拝見しました。この度は、当会の活動が新聞に掲載されたことについてブログに載せて頂き、大変驚きました。地方紙の小さな記事を取り上げて下さり、ありがとうございました。

また、会報3月号の2016年度勉強会『さらに良い製本をめざすために』は興味深く読みました。当会でも現在、完全に開く製本をしています。弱視のお子さんに、教材以外に朝読書で読む本も作製しているので、少々の乱暴な扱いにも耐える、丈夫できれいな製本をめざしています。

当会では今年度、国語の教科書・社会の副読本・図書館に納める本などの拡大製本の他に、ごみ収集日カレンダーの拡大などに取り組みます。26名の会員一同、微力ながら、弱視の方の「見る・読む」を支えるお役に立ちたいと、日々活動を続けています。



毎週火曜日に活動しています



### 越谷市ボランティア連絡会拡大写本グループ(埼玉県) 代表 早川 実千代

私たちのグループを紹介します。現在21名で活動しています。主に拡大教科書の作製をしていますが、その他図書館へ青空文庫の拡大版、市役所のごみカレンダーの拡大版、弱視の方のコーラスの拡大歌詞や書類の作成をしています。越谷市ボランティア連絡会に所属しているので、グループ員は拡大の

みならず複数のグループ、越谷市ボランティア連絡会拡大写本グループで活動している方が多いです。(42グループあり、手話、点字、朗読傾聴、手づくりなど)連絡会の世話人になると行事にも参加しますので結構忙しく過ごしています。今年は連絡会の設立40周年記念誌の製本のお手伝いがあります。一昨年より社協所有の製本機が壊れ寒冷紗で背貼り製本していましたが、連絡会が助成金申請をして、5月に新しい製本機が届きました。私たちも製本機を利用できますのでほっとしています。

中学校の福祉体験授業も昨年よりパソコンで教えるようになりました。最新のパソコンなので私たちも事前に勉強してのぞんでいます。パソコンの取り扱いが手慣れている生徒とわからなくて手間取っている生徒を見て思うのは、家庭でパソコンに接する機会が多いかどうかの違いかなと思います。私たちのグループも高齢の方が多くなり、5年先となると何人活動できるかと不安になりますが、みんなの元気なパワーを貰って活動しています。(福祉体験授業：学校からの依頼で手話、点字、朗読、白杖や車椅子の体験を生徒に2時間ほどで教える授業です)



福祉体験授業



### 山梨県拡大写本赤十字奉仕団 代表 川又 智恵

さて、会報の記事ですが、ロービジョン・キッズたちの状況一もっと知ってほしいこと一の記事が心に残っています。分冊数における子供の負担、子供の成長にともなう副教材、高校の教科書、いろいろな現状を垣間見ることができました。私達、製作者のもとにはなかなか届かない声のように思います。

これからも生徒さんや親御さんのご意見を取り上げていただきたいと感じています。

私達、山梨県拡大写本赤十字奉仕団は創設14周年を過ぎました。拡大写本を取り巻く環境もずいぶんと変化しました。しかし、白黒反転、特に大きい活字ポイントなどはご依頼頂いています。また、手書きの技術を残すために年に2回、盲学校に、絵本を製作し届けています。原点である一人一人にあわせた拡大写本をこれからも目指したいと団員一同毎日、取り組んでいます。

今現在の悩みは、製作準備をしている次年度教科書のデータ、教科書がなかなか手元に届かないことですが他のグループはどのように対処しておられますか。

私達は拡大図書を必要としているのに手元に届かない方がないように これからも働きかけたいと考えております。



活動の様子

## 拡大 now & 編集後記

- 2017年度勉強会は著作権法の改正がなかったため、11月5日に延期しました。追って詳細をお送りします。
- 2017年度会費の納入をお願いいたします。振り込み用紙を同封しました。
- (株)ジャストシステム社による編集ソフト「一太郎・花子」の寄贈は継続されています。一度も受けてない方は申し込みできます。
- グループ紹介は無作為に選んだグループの皆様に寄稿していただきました。次の機会はまた別のグループにお願いすると思いますが、自主投稿も大歓迎です。
- ホームページのアルバムページは皆様の写真で一杯にしたいと思います。是非お送りください。